



SOEは第1回エコポリス板橋環境活動大賞の《環境教育部門 優秀賞》を受賞いたしました。

エコポリス板橋環境活動大賞表彰式及び環境シンポジウム

2月19日: 板橋区立グリーンホール



坂本区長より表彰を受ける
SOE 寺田代表



「学び」を通して社会を変える！

～NPO法人センスオブアースが果たしたもの～

田中雅文氏

日本女子大学人間社会学部教授
SOE 理事

先月、NPO法人センスオブアース(以下 SOE)は「第1回エコポリス板橋環境活動大賞 環境教育部門 優秀賞」を受賞した。

SOEは2004年夏の発足以来、7年半にわたって5,000人以上の幼児・児童・生徒・学生・市民に対して環境教育の機会を提供してきた。ワークショップで学生を中心とするスタッフを鍛え上げるとともにプログラムを開発し、それに基づいて学校等に体験型の環境教育を「届ける」という出張方式は、SOEが編み出した大変ユニークなものである。SOEの活動は、次のような点で社会に大きく貢献している。



第1に、環境問題についてきわめて実践的な学習の場を提供している。それは、作る、考える、話し合う、発表するといった、さまざまな体験的な要素を組み合わせ、環境問題を総合的に学ぶことのできるプログラムである。体験を通して、子どもたちや若者・市民は実感をもって現代の環境問題を学ぶことができ、さらに自らの行動にもつなげる可能性が高まるのである。

第2に、学生を中心とするスタッフ自身が大きな学びを経験している。授業に先立つワークショップや授業場面そのもの、その後のふり返りという一連の活動は、出張授業の提供側であるスタッフの学びも促進する。いずれは教職やビジネス界で中核的な存在として活躍する彼/彼女たちは、こうした学びを土台に循環型社会の構築をリードする存在となってくれるだろう。

第3に、出張授業のほかにも精力的に行っているSOEの環境保全活動や73号まで毎月2,500部以上を発行し続けている情報発信・提言活動は、多くの人たちに啓発効果をもたらしている。これらの地道な活動は、それらに接した人々にとって「環境市民」への誘いとなっているのである。

以上のような側面から、SOEの活動は環境に関するさまざまな人たちの意識変容を促すとともに、循環

SOE 日本女子大学 新井さとみ 寺田先生が中心となり歩んできたセンス・オブ・アースに、途中から参加させていただくようになった私ですが、環境教育部門で最優秀賞を取ったということで、私も表彰式に参加させていただきました。評価の1つとして継続性という項目がありました。センス・オブ・アースの人と一緒にいると何時も「この活動も集団もずっと続いていくんだ」と強く感じます。それは寺田先生を始め、周囲の人にもまたセンス・オブ・アースを始めた時と変わらない、強い信念と覚悟を持ち続けているからだと考えます。私としては今まで活動してきた環境学習が、やはり間違っていなかったと改めて感じる事が出来ました。



SOE 柳栄吉 この度、板橋環境活動大賞、優秀賞をいただいたことは大変うれしく思うとともに今までの活動に対して責任の重大さを新たに感じています。本来人間が持っている、思いやりや共感・人生のゆとりといった心の豊かさを育む一つの方法として、小さいころから自然環境を体験することから始められると考えています。私たちセンスオブアースも、学年や年齢に応じて環境教育のプログラムを開発し、検証を重ねていくことによって、子どもたちに少しでも環境について理解し、生活改善への実践力をつけていきたいと願っています。これからもよろしく願いいたします。



SOE 北野翔平



今回受賞の対象となった、保育園・小学校・中学校向けの環境プログラム開発とその実践。自分はこの活動をひとつの「きっかけ作り」だと思い、進めてきました。木や虫や土に触る。食べ物の旬や産地を考える。授業をきっかけに、目の前のものの不思議さや当たり前のことへの疑問を感じてもらえる瞬間が一番大切な時間。不思議さに答えは無くても良いし、解決にはじっくり取り組みれば良い… 誰にでもあるちょっとした時間。その時間に身近な自然に触れてみたり、目の前にある食べ物についてちょっと思いを巡らせてみたり。そんな時間の使い方の心地よさに触れてもらえる機会を目指して、これからも活動に関わっていけたらと思っています。

★
2月7日 志村坂下保育園4歳児ぶどう組
雨のたからさがしおもしろいね

あいにく雨でした。が、朝から、園内でコウモリとガのゲームを行い、その後、いもむしの宝ぶくろの紙芝居を見てから、いもむし母さんのために、たからさがしへ近くの公園へ。カサをかぶり、長ぐつをはいて、ポッチャリ、ポッチャリとのんびり歩いていきました。雨粒の



かかる葉っぱを見たり、新芽を探したり、木のおいをかいたり、こけにさわったり、野鳥の声を聞いたり… 小雨の中、保護者のみなさんと、たからさがしカードを見ながら発見して歩きました。園に戻ったからのものの発表を出し合うと、スタッフには気付かなかった、小鳥の鳴き声や生きものがかくれている穴を見つけたり、4歳の子どものかわいい目や耳は、大活躍でした。その後ドングリコマ回し大会。「コマが楽しい!!」の声。保護者のみなさんも素晴らしかったです。スタッフには1歳のお子さんを連れて参加してくれた藤野さん親子も。雨の中の貴重な楽しい体験でしたよ。

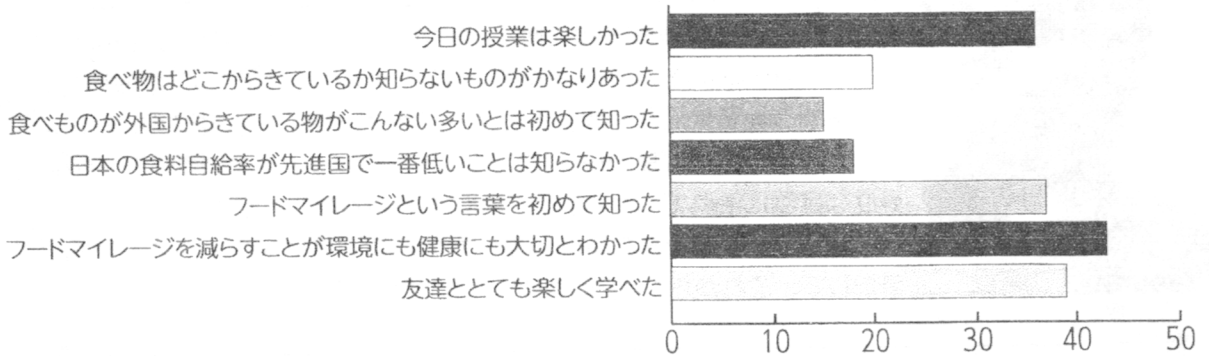
2月9日 板橋第七小学校 5年生 食べ物はどこからを学んで—

立春過ぎたとはいえ大変冷え込んだ日でしたが、板橋第七小の体育館は、暖房と熱気で温かく、藤森美恵先生・高橋健一先生が担任の5年生の子どもたちはとても活発に活動し、率直に自分の意見を発表しました。

《子どもたちの気づき よい環境意識が芽生えました。》

●真だこがモーリタニアという知らない国で生産されていることが分かった。(M・R) ●いつも何気なく買っていたたべものもよい悪いがあることが分かりました。地球温暖化を防ぐことをこれからもやっていきたい。(T・K) ●身の回りにあるもので外国の物はフードマイレージと同じような仕組みなのかなと思いました。(T・K) ●世界のいろいろなところから食品が来て安いからいいなと思ったけど、それは地球には優しくないのだと思いました。(F・R) ●下級生や家の人以外にも区のみなさんなどに「フードマイレージ」という言葉を知ってもらい、減らすために出来るだけ国産品を買うなどの活動をさらに活発化したいです。(H・U) ●どこかへ出かける時は徒歩・自転車を使う。とてもわかりやすい説明でよくわかった。(Y・A) ●これからはなるべく近くの産地のものを選びたいと思う。(S・M) ●初めてわかったことがたくさんあった。詳しくわかった。すごく楽しかった。(S・T) ●お買い物ゲームが楽しくかつ勉強になりました。(F・N) ●フードマイレージを減らすためにもっと自分が出来ることをやっていきたい。(S・M) ●外国の輸入に頼るのはダメ。(K・R) ●日本の自給率について詳しくわかった。(K・T)

フードマイレージを学んで(44人中)



S・O・E 活動報告 1月

日曜	内容
8日	NPO交流会子育て講座プログラム作り(～11日)
12木	志村坂下保育園打合せ
17火	蓮根保育園 4歳児いもむしのたからぶくろ
15日	SOEニュース72号発行作業
19木	区子育て講座 講師 仲宿地域センター
20金	学校関係連絡調整
24火	赤塚新町小5・6年 打合せ
26木	蓮根保育園 3歳児 木の顔はどんな顔 他
28土	区子育て講座 講師 仲宿地域センター
31火	板七小 5年 打合せ

2月

日曜	内容
3金	赤塚新町小 5年2クラス食べ物はどこから 実施
4土	環境なんでも見本市出店エコポリスセンター(～5日)
7火	志村坂下保育園 4歳児いもむしのたからぶくろ
9木	板七小 5年2クラス食べ物はどこから実施
10金	板二小5年研究授業講師 旬の野菜を調べよう
12日	SOEニュース73号発行作業
13月	赤塚新町小 6年2クラス ペットボトルの水実施
18土	野鳥観察会 芝川遊水池 3者共催実施
19日	板橋区環境活動大賞 環境教育部門優秀賞SOE受賞
24金	徳丸小5年3クラス食べ物はどこから 実施
26日	SOEワークショップ 講演会「放射線の話」聴講

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp